

「所沢カルチャーパーク・ボランティア活動体験会」ご報告

薄井文子（事業部理事、ふるさと公園応援隊員）

新緑の爽やかな風がそよぐ中、4月27日(火)「ふるさと公園応援隊」のボランティア活動体験会を行いました。ところざわ倶楽部の6サークルから14名、そして「松井茶の花サロン」から2名のご参加いただき、総勢16名で作業に加わりました。

「ふるさと公園応援隊」ができたきっかけは、所沢市民大学「都市の環境」グループがグループワークのテーマとして都市の環境遺産とは何かを取り上げました。所沢は周辺の市に比べて航空公園や小規模でも身近に公園がたくさん点在し、緑豊かな都市であることがわかり、中でも「カルチャーパーク」は所沢市所有の公園で、市民の貴重な財産であることに気付きました。

でも、皆さんの記憶にあるように、当時、10年前は整備が行き届かず、産業廃棄物、車や自転車、家庭ゴミがあちこちに無造作に捨てられている、うっそうとした1人では近寄りがたい公園でした。

何とかこの公園を将来の子どもたちに故郷を感じられる公園として残して行きたいとの思いがメンバーの共通の願いとなり、2011年10月より活動を始め、今年で10年になります。

それ以来、見回るだけでなく、この制限なく捨てられているゴミを拾おうとゴミ拾い活動が始まり、今では市民大学の講座「地域の自然」の講師である大堀 聡先生にご指導いただきながら、林内作業で常緑樹の伐採や下草刈り等も行っております。活動日は毎月最終火曜日と月の中旬にもう1回、9時30分から林内作業とゴミ拾いの2つの班で作業を行っております。

さて、当日は準備体操から始まり、会員参加の作業は順調に始まりました。林内作業班はリヤカーに作業道具一式を積んで木の伐採が始まりました。ゴミ拾い班の私たちはふんわりと柔らかな緑の草を踏みながら見学方々第2駐車場を抜けて、桜木神社に到着。ここまではさほどのゴミは無くビニール袋は軽々でした。

3月の定期作業日に発見していたのに、とても隊員の3人では運びきれない笹藪深く捨てられた無数の家庭ゴミがある地点に到着。今までの気分が一転して驚きの声があちこちで聞こえてきました。

何でこんな奥まで運んで捨てるんだろう？考えられない！ひどいね～！など。

皆さん、黙々と、真剣にゴミを袋に収め、笹藪の外へ運び出しました。

リヤカーに山積になり、あとはそれぞれが大きな袋を両手に提げて管理事務所まで運びました。写真を見ての通りのたくさんのゴミでした。

みなさんの感想は、

- 所沢に住んで 40 年、初めてカルチャーパークへ行ってきました。全員マスクをしてのごみ拾い体験でした。新緑が柔らかく、キンラン、ギンラン咲き始めていました。久しぶりにコロナウイルスを忘れた半日でした。
- 最初はゴミが何もなく感心していましたが、終了時間近くなって大量のゴミを発見。びっくりしました。今日は所沢がこのようなボランティア活動などで支えられていることを実感しました。新緑の中、キンラン、ギンランなどの鑑賞も出来て、良い体験会だったと思います。

ご感想をありがとうございました。

四季折々、身近にある自然を楽しむカルチャーパークです。お散歩でも、孫とお遊びでも、また可憐な草花を楽しみに、是非また訪れてください。